


2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立石田小学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 1クラス 22名 6年 1クラス 16名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (総合的な学習の時間) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○パラリンピックについて知り、興味・関心を高める。 ○パラリンピック競技について調べ、障害のある人がスポーツを楽しんでいることを理解する。 ○パラリンピック選手との交流を通じ、体に障害のある人がどのように障害と向き合い、様々なことを乗り越えて今を生きているのか、ということを知り、自分の生活に生かす。
5 取組内容	(1) いろいろな生き方の人について知る。 6年生が「総合的な学習の時間」で、いろいろな人の生き方について学習を進めた。戦争時代を生きた人たちの生き方、体に障害をもった人の生き方などに触れた。その学習の1コマとして、「車いすバスケットボールを体験しよう。」の学習をした。 

・4年生は、車いすバスケットボールを体験して学習を終えたが、6年生は体験の後、山本選手や東選手から自分たちの体験してきたことなどについて話を聞いた。



(2) いろいろな生き方の人について調べる。

・図書館やインターネットなどで、体に障害がある人やパラリンピックについて、また戦争中に生きた人たちについて調べた。

(3) 調べたことを学習発表会で発表する。

・自分たちが調べてわかったことを、全校生や保護者の人たちに知ってもらいたい、という思いから3つのテーマに分けて発表した。

- ① パラリンピックについて
- ② 体に障害がある人たちについて
- ③ 戦争中の人々の暮らしについて

(4) 全校生にも体験してもらうために「みんなの広場」を計画し、開催する。

・自分たちでブースを作って、全校生に自分たちが調べてわかったことを体験してもらうために、「みんなの広場」を中間休みに5日間開催した。

・身体に障害がある人をテーマにしたブースでは、「ボッチャ」と「シッティングバレーボール」を体験できるようにした。競技について説明したあと、実際にグループを作って試合をした。低学年の子どもたちもルールがわかりやすく、とても興味をもって体験している様子が見られた。



(5) いろいろな人の生き方について学んだことをふまえ、これからの自分の生き方について考える。

6 主な成果

○スポーツに興味をもっている児童が多いが、パラリンピックについて知っている児童は少なかった。しかし、この学習をしたことで、パラリンピックについて興味をもつようになり、ニュースなどで取り上げられていることについて、児童から話題にするようになった。

	<p>○いろいろな立場の人が、共によりよく過ごすためには自分たちはどんなことに気を付けていけばいいのか、ということをも自分のこととして考えることができるようになった。</p> <p>○身体に障害がある人は、「何もできなくてかわいそうな人」と思っている児童がたくさんいたが、自分たちと同じようにスポーツを楽しんだり、仕事に就いたり、趣味を謳歌したりしていることに気づくことができた。</p> <p>○いろいろな人・もの・こととかかわる機会が少ない児童が多く、そのことにより、ものの見方・考え方が偏っていることがある。互いに認め合うことに課題がある児童にとって、体験を伴いながら学習を進めることは、よい学びの機会となった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○興味をもつことができるように、体験させたり、動画などを活用したりして、身近なものとして捉えられるようにした。</p> <p>○他教科と関連付けながら、学びに系統性をもたせながら単元を構築した。</p>
8主な課題等	<p>○めあてのない体験にならないように、しっかりと学習のめあてを意識できるようにする。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○児童にとってよい学びの機会と考えるので、継続して実施していきたい。</p>